



東栄小だより

令和7年度重点教育 『自ら創る』

令和8年
1月30日発行
第10号

3つの幸せ

校長 谷越秀樹



令和8年となって、早一ヶ月が過ぎようとしています。保護者・地域の皆様方には、本年も、子どもたちの健やかな成長に対するお力添えを、どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、私は2学期の終業式の際に、子どもたちに「3つの幸せ」についてお話ししました。以下がその内容です。

1つめの幸せは、「**人に何かをしてもらう幸せ**」です。

お家の人においしいお弁当をつくってもらったり、忘れ物を届けてもらったときは嬉しいですよね。

2つめの幸せは、「**できるようになる幸せ**」です。

自転車に乗れるようになったり、鉄棒で逆上がりができるようになったときは嬉しいですよね。

3つめの幸せは、「**自分が人に、何かをしてあげる幸せ**」です。

人に何かをしてあげたり手伝ってあげたりしたときに、相手の人が喜んでくれたら嬉しいですね。

みなさんはお家の人に、どんなことをしてあげられるでしょうか？

お皿洗いでどうか、洗濯物をたたむことでしょうか？ 雪はねのお手伝いでどうか？

ぜひ考えてみてください。この冬休みがチャンスです。お家の人のために何かをしてあげたり、お手伝いをしてあげたりして、たくさんの幸せを感じてほしいと思います。

ある日、テレビで、働いている人たちへのインタビューが放送されました。子どもたちが働いている大人に質問をしていたのですが、「この仕事をしていて嬉しかったことは何ですか？」という問い合わせ、働いている人たちは一様にこう答えていました。

「それは、お客様が喜んでいる顔を見たときです」

『お客様に「ありがとう」って言われたときです』



子どもたちはやがて大人になり、社会に出て働くようになります。子どもたちが将来、どんな仕事をしようかと考える時には、好きなことや興味のあることなど、自分にとってやりがいのある仕事を思い浮かべるでしょう。私はテレビでこの場面を見た時に、どんな仕事も自分のためだけではなく人のために働いているのであり、相手に喜んでもらうことでやりがいや幸せを感じたのだと思いました。

東栄小では働くことの意義や職業観を学ぶ「キャリア教育」を推進しています。今年度も社会見学で働いている方々の現場を見せてもらってお話を聞かせてもらったり、自動車会社や航空会社の方々に来校していただき、仕事の内容や日本の未来について講話をしてもらったりしました。このような経験を重ねることで学習に対する意欲や興味・関心が高まることを願うとともに、子どもたちにはこれから的生活の中で「人に何かをしてあげる幸せ」を感じてほしいと思います。

最後になりましたが、保護者の皆様にはスキー学習の補助や、1年を通しての朝の街頭指導にご協力をいただき、どうもありがとうございます。今年も東栄小の教職員は、子どもたちの豊かな成長と学びを支えるために尽力してまいりますので、今後ともご理解とご協力をどうぞよろしくお願ひいたします。

目指す学校・子どもの姿を求めて

～学校評価アンケート結果～

2学期の終わりに、本校の教育活動を振り返る学校評価を実施しました。児童・保護者アンケートの結果は、左のグラフのとおりです。

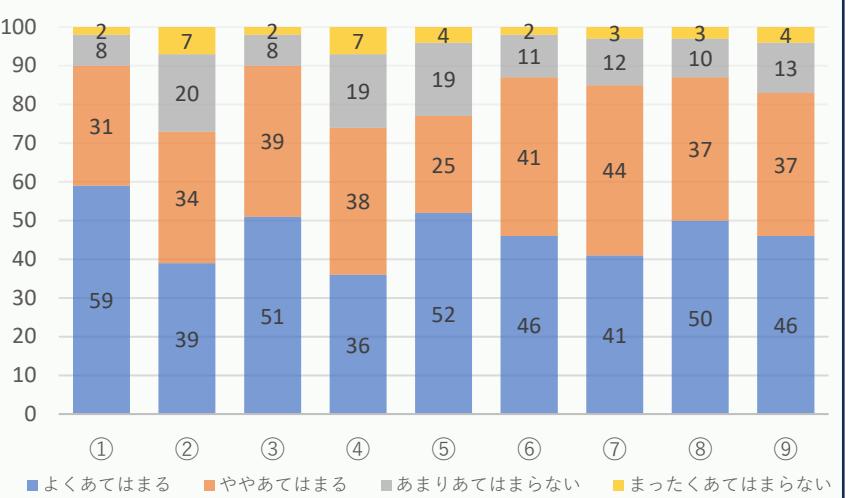
「楽しく学校生活を送っている」「望ましい友達関係を築いている」の項目では、ともに肯定的な回答が多く、子どもたちが安心して学校生活を送り、人との関わりの中で成長している様子がうかがえます。後期にかけては、行事や日常の学習活動を通して、友達と協力したり、自分の役割を意識して行動したりする姿が、より多く見られるようになりました。

一方で、「目標を立てて家庭学習に取り組んでいる」「ゲームやスマート等の約束を守っている」といった生活習慣に関する項目については、本校として重要な課題であると受け止めています。特に、情報機器の使い方については、生活リズムや学習への影響も大きいことから、引き続き重点的に指導していく必要があると考えています。その一方で、家庭学習については、内容を工夫したり、振り返りを意識したりする児童が増えるなど、改善の兆しも表れています。

本校の重点である「考える力」「伝え合う力」「創造する力」は、子どもたち一人一人に確かな資質・能力を身に付けさせることを大切にして取り組んでいます。授業の中で自分の考えをもとに学びを深めたり、友達と意見を交わしたりする姿が増え、3つの力が日常の学びの中で少しずつ育っています。

お忙しい中、アンケートにご協力いただきありがとうございました。いただいたご意見は、今後の学校運営に生かしてまいります。

【児童アンケート結果】



【保護者アンケート結果】

